

亀山市域(鈴鹿山系南部 仙ヶ岳～高畑山) 錫杖ヶ岳(向井ルート) 登山道概況(2020. 5. 20 現在)

[1]野登山と周辺

番号	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概況	危険地点、問題点	備考
①	野登山表参道 (1)～(4)	坂本棚田駐車場が利用できる。トイレ有り。登山地図看板あり。車道を進み、獣害対策ゲートを通過すると幅の広い安定した道が続くが、登山者は少ないので秋には落ち葉で不明瞭な部分もある。途中で車道(野登山林道)にでて、再び登山道に入る。頂上部は杉の老木に囲まれた野登寺周辺と三角点のある東の頂上部に分かれている。野登寺の入口の広場(車道の最終地点、小トイレ有り)から少し登る(約 5 分)と、野登寺に至る石畳の道(左)と頂上(三角点)への道(右)の分岐があり、右に進む。小さな池(湿地)を通り、ブナが多くみられる樹林の中の頂上(三角点)に着く。頂上からの展望はきかない。一の谷コースを約 5 分下ると、国見広場に着く。知多半島、伊勢志摩、鎌ヶ岳、御在所岳まで眺めが得られる。 [行動参考時間 登り 80～90 分、下り 60 分]	参道(登山道)と車道が交差するが、特になし。	【2020・5 更新】 コース概要
②	坂本棚田よりミツマタ群生地、仙鷄尾根出合 (5)～(6)	坂本棚田から、坂本集落入口の曲がり角(道標有り)を左に曲がる。獣害対策ゲートを通過する。ミツマタ群生地までは、矢原川左岸の上の車道とよく踏まれた登山道を進む。小さな沢を 2 か所渡ると、林業の古い作業小屋があり、前方の谷上流部一帯(ヒノキ林)がミツマタ群生地となっている。花が咲く 3～4 月はハイカーが多く訪れる。群生地の左側の尾根(778 mピークから南に延びる尾根)に上がり、仙鷄尾根の 778m ピークを目指して、忠実に尾根に沿って登る(進行方向は	岩場、崩落地はない。 坂本棚田、坂本集落内に道標があるのみで、その後の道標は全くない。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		北)。林業の杭以外に、道標はないが、明瞭な踏み跡がついている。ただ 778p 直前で右に巻き仙鷄尾根の鞍部にでる。下りに利用する場合は、尾根からミツマタ群生地に下りる地点で、直角に曲がるので、見過ごさないように注意する。 [行動参考時間 登り 100 分、下り 80 分]		
③	縦走コース 仙鷄尾根 (7)～(10)	野登山から仙ヶ岳に至る尾根で鈴鹿市と亀山市の境界である。野登山は昔、鷄足山と呼ばれていた。(現在、頂上にある野登寺(やとうじ)は、鷄足山野登寺の称号でよばれていた。)そのため、仙鷄尾根と呼ばれる。 野登山三角点(東峰)から仙鷄尾根の入口までは車道を通る。車道が嫌な人は西峰(現在は更地になっている)から東に進めば容易に仙鷄尾根入口に行ける。 入口の表示は車道(林道)のガードレールの脇にある(地図参照)。しばらくは植林の暗い道を下ると、ミツマタ尾根(坂本集落)への道が分岐する鞍部に出る。778mのピーク後は次第にやせ尾根となり、花崗岩の露岩、ガレ(ザレ)場、急な登り(下り)が連続するようになる。固定ロープが数か所あるが、バランスに注意して行動していく。小岐須溪谷(屏風岩)から道との合流点が最低鞍部。現在、すぐ西の岩場の崩壊が進んでいる。固定ロープを補助的に使用し慎重に通過したい。岩場の上のピークがタカノス(786m)との分岐になっているが、タカノス～不動滝は非常に危険であるので誤って入らないこと。 仙鷄尾根の急な登りを頑張ると、東峰(仙の石)に着く。この仙鷄尾根はガイドブックには一般登山道と記載されている	危険地点多い。 小岐須(屏風岩)からの登山道が合流する地点(コル)の上は崩壊が進み、固定ロープがなければ通過不可。 「仙鷄尾根」と書いたプレートがある。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		が、危険地点もあり、初心者、未経験者にはやや辛いコースである。なお、「仙鷄尾根」と書いたプレートが数か所設置されている。[行動参考時間 登り 90～100 分 下り 70～80 分]		
	その他の登山道 「野登山の古い参道 (市境の尾根道)」	2.5 万分の 1 地形図「伊船」では亀山市と鈴鹿市の市境に徒歩道(登山道)を示す点線が野登山林道に沿って描かれている。 地元の方の話では、過去に庄内村からの参道であつたらしいと聞き、実際に歩いてみると、入口には伐採された木、倒木などで歩きにくい、すぐに尾根に沿って「道形」があるので、それが利用できる。道は荒廃して、道形が消えて無い部分もある。また、急な所や小さな岩場もあるが、古いテープもつけられており、忠実に尾根に沿っていけば、それほどの苦労はなく、頂上付近の無線中継地に達することができる。良い点は、二次林(広葉樹)が多い中で、静かな山登りができるという点である。特に標高 750m から上部は、緩やかな広い尾根になり、落葉広葉樹の林になり、新緑の若葉や紅葉の季節は雰囲気が良い。		【2020・5 更新】 追記

①野登山表参道 写真 (1)(2)(3)(4)



登山口(1)



登山口「鶏足山野登寺」の表参道(2)



表参道 整備された広い道(3)



鶏足山野登寺境内(4)

②ミツマタ尾根(5)～(6)



ミツマタ群生地(5)

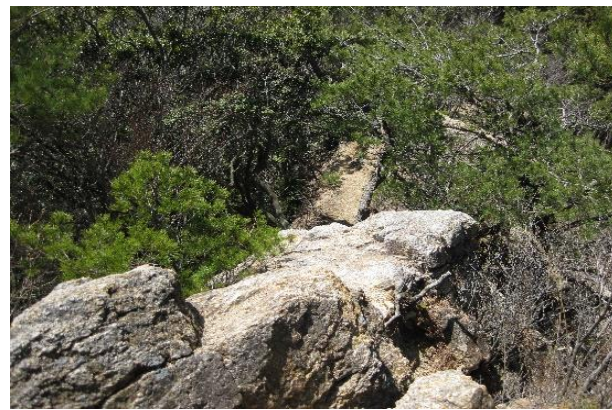


ミツマタ尾根から尾根に上がる地点 下り時は注意する。(6)

③仙鷄尾根 写真(7)～(10)



花崗岩のやせ尾根(7)



花崗岩のやせ尾根 固定ロープあり(8)

	
小岐須峡谷分岐 小岐須溪谷からの登山者が多い。(9)	仙鷄尾根の崩壊地点 崩壊して危険(要注意)(10)

[2]仙ヶ岳とその周辺(鬼が牙、御所平)

番号	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概況	危険地点、問題点	備考
	仙ヶ岳登山口より石谷川林道車止め(小駐車場)、林道終点広場	新名神高速道路の真下の地点(仙ヶ岳登山口、東海自然歩道の入口)から石谷川林道に入り、すぐに、右の東海自然歩道との分岐で、左に進む。茶畑から林の中を進むようになるが、車道は地元の協力で改修もおこなわれているが土砂堆積や雨後の侵食で荒れ気味である。車止めのある堰堤上の小広場(数台駐車可)に着く。 これよりは歩行のみ通行可能である(バイク、自転車も通行不可)。林道は落石、土砂堆積で荒廃しているが、歩行は可。途中に小矢場峠(の地名)があるが、道の屈曲点で「峠」とはいえない。林道の最奥は石谷川の白谷と葺谷の合		【2020・5 更新】 追記

		流地点で、小広場になっている。廃材が積まれている。(この地点は南尾根ルートと白谷ルートの分岐ではない、要注意) [行動参考時間 登り・下り 30 分～40 分]		
	石谷川本流 (上記の車止めから林道にほぼ並行。滝が連続する。)	石水溪バンガロー(安楽川沿い、古いトイレ)から、古い遊歩道を利用して(上の)石谷川林道車止めに出ることができる。バンガロー前の石水溪案内看板の裏側から斜面を登る古い登山道があるので、登ると尾根を乗っこして谷(石谷川本流)を渡渉する。残存する橋の基部を利用するが増水時は渡渉不可の事もある。登り返して石谷川林道に出れる。車止めのある小広場(数台駐車可)である(上記)。林道側から、滝見の道を利用して三つ淵と白糸の滝に往復ができるが、道は崩壊しているので注意しなければならない。 [行動参考時間 10～15 分] 小広場の下、第 2 堰堤(砂防ダム)の河原の砂場に降りる。まもなく「頂礼井戸 ちょうらいいど」と呼ばれる 2 段 15m の滝がある。小さい滝と淵が連続するが、7m の滝を過ぎると、「七つ釜」と呼ばれる滝がある。沢登りの装備と技術・経験を有する登山者のみ、遡行可能なルートである。 [淵、廊下、滝、滝つぼが連続するので沢登りの技術を有するもののルートである。時間は略]		【2020・5 更新】 追記
④	仙ヶ岳南尾根コース (11)～(20)	林道終点広場から約 5 分で、南尾根ルートと白谷ルートの分岐点に着く。ここは営林署跡である。道標を確認して、南尾根ルート(右)に入る。ルート的前半はイタハシ谷に沿うが、狭く深い谷の側壁を固定ロープや古い木の橋を利用しながら進む。木の橋は老朽化で、1か所崩れ落ちており、谷	老朽化した木の橋、固定ロープも古くすりきれているものもある。南尾根の連続する岩峰 P1～P5 は慎	【2020・5 更新】 コース概要

		沿いに迂回ルート設置したが、落石の可能性があるのでスムーズに通過したい。イタハシ谷の源流部は石の枯れ沢の急斜面。落石や浮石に注意。 鞍部(不動尊分岐コル)の右側には不動明王がまつられた岩場がある。南尾根は左の岩場から始まる。取り付きは岩壁になっている。ホールドはしっかりして、固定ロープが有り利用できる。経験豊富なリーダーの指示のもとで、三点支持で慎重に登りたい。その岩壁の上も、転落に注意しなければいけない岩場あり。それ以降も岩峰 P4～P1が尾根上に続いており、アップダウンを繰り返しながら進む。赤テープが適度につけられているが、慎重にルートファインディングをしたい。 本ルートは登山の醍醐味、展望が味わえる人気のルートであるが、岩登りの基本的技術が必要なルート。バリエーションルート(一般登山道ではなく、技術的に困難なルート)に近いルートであることを、十分理解して、慎重に行動したい。またこのルートを下ることは危険が伴う。特に初心者や高齢者が下りに使用するのは避けたほうがよい。 [行動参考時間 登り 120 分～150 分 下り 120 分]	重に登る。ルートファインディングの力も必要。 南尾根を走って下ることは特に危険である。また初心者や高齢者が下りに使用するのは事故の危険が伴うので要注意である。 ※バリエーションルート(一般登山道ではない、地図に登山道として記載されていないルート、技術的に困難なルート)に近いルートである。	
⑤	仙ヶ岳白谷(しらたに)コース(21)～(26)	南尾根コースの分岐の道標から、白雲の滝をみて、石谷川の左岸の側壁から右岸に渡渉する。登山道は右岸側の斜面上につけられている。転落しないように注意を要する。老朽化した木の橋は補修をしたが、慎重に行動したい。左岸への渡渉点は増水時の注意を要する。左岸側の崩壊した側壁にハンゴ(2 本)、クサリが設置されている。ハンゴは揺	ハンゴ、渡渉点(増水時)、木の橋	【2020・5 更新】 コース概要

		れるのでバランスに充分注意したい。大ザックの登山者の通行は困難である。さらに腐った木の橋が3つある。山側の岩の上を慎重に通行してほしい。その後、御所谷出合まで右岸側、左岸側を繰り返しながら進むが、渡渉点はかなりわかりにくい。立派な石積堰堤の右側を上がり広い河原に出る。白谷の上部が明るい。赤テープや石積みケルンを参考にして沢をつめてゆく。源頭部になるにつれて、一見、石がゴロゴロしているだけに見える沢になる。直進が仙の石へ、左が仙鶏尾根・仙ヶ岳(西峰)への分岐までくると、あとわずか。いったん、仙の石(東峰)に出て大展望を楽しみながら休憩したい。多い人数での休憩の適地である。 [行動参考時間 登り 100～120 分 下り 90 分] ※参考 白谷途中から尾根に上がるルート 石積堰堤の手前から植林の道を利用して、県境稜線から南東方向に延びる尾根の下部に上がるルートも存在するが、尾根に上がる部分が急である。		
⑥	葦谷(ふきたに、ガンサ谷))コース (現在、廃道化しつつあるルート)	林道の最奥の石谷川の白谷と葦谷の合流地点(小広場)から、渡渉して対岸から、葦谷に入る。すぐに古い「七つ釜コース」のプレートが残存する。現在の登山地図等には「七つ釜」の地名は記載されたものがないので、「七つ釜コース」とは、どの範囲を指すのか、その理解は難しい。葦谷の左岸側に踏み跡に近い登山道が続く。随所に、腐った木の橋、鉄の橋が残存している。釜の上部を渡渉して、新しいクサリがつけられた小滝の横をよじ登り、今度は右岸側を進む。シダが道を覆っており、崩れた部分がわかりにくい。この周辺	谷の上流部(源頭部)は崩壊が進み、利用する登山者は、皆無又は極端に少ない。谷下流部は小滝が連続して、登山道は荒廃。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		は国有林であるが、シキミ業者の伐採地になっているらしく許可看板もある。中流部になると、一転して広い河原状になる。炭焼き跡も点在し、堰堤がつくられている(2か所)。セツ釜コースの表示板も存在する。最終の堰堤を右岸側から巻くと、葺谷は狭まる。地形図では、谷沿いに登山道が描かれているが、随所で崩れており、歩行は危険である。右岸側の小尾根の中にルートをとるが、斜面のトラバース、ガレた小さい谷、崩壊地の部分と続いていく。最後は急な小尾根を木の根をつかみ登れば、崩壊の激しい県境稜線の鞍部にでる。本コースを利用する登山者は、極端に少ないと思われるが、なかなか味わい深いルートでもある。 [行動参考時間 登り 120 分 下り 120 分]		
⑦	仙ヶ岳 御所谷コース（現在、上部は荒廃している）	白谷から御所谷の入口は狭い。左岸側にとりつく。やや道は不明瞭であるが赤テープがある。左岸側のトラバースの小岩場の通過に注意したい。小滝が連続する右岸側を慎重に進む。10m の滝は右岸を高巻くがやや不安定で落石に注意する。その後も 2m、3m の滝が連続するが、登山道は明瞭である。中流部は広い谷になり、緩やかな流れになる。左に御所平谷を分け、右に曲がる。古い道標(御所谷コース)と赤テープがたくさんつけられており、迷う心配はない。徐々に道には土砂、岩石、流木などが堆積して、道は消えてゆくが、忠実に、谷芯を進んでいき、倒木に阻まれたら、横の斜面に逃げて進む。谷の上に御所峠の空の隙間が見えてきたらあとわずかである。[行動参考時間 70～80 分]	踏み跡程度なので、ガス、雨、雪などで方向を失う危険は大いにある。(地図、磁石、それを使用する力が必携。)	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

⑧	御所平南西端から小太郎峠 (県境稜線)	南西端から下る県境稜線の道は直角に曲がっているので見落としやすい。県境稜線であるが植林の広い斜面であるので、わかりにくい。葺谷ルートとの分岐(道標なし)をすぎると、植林の中を 15 分程度歩き、小太郎峠である。その真上が大岩。標識あり。	登山道は明瞭であるが。左右に曲がる所が随所にある。(地図で地点確認の必要)	
⑨	石水溪、三ツ淵から鬼ヶ牙(谷ルート) ※鬼が牙 油断できない岩の山!	本コースの下部、特に前半が、陰悪な暗い谷の中のルートで、側壁の固定ロープをつかみながら慎重に登らなければならない。岩場が滑りやすく、危険である。後半は、尾根に上がり(展望良い)、そして小さな沢筋にまわりこみ、再び左側の尾根にでて直接「鬼ヶ牙」に登る古くからある登山道である。現在、一般登山者、特に高齢者、子供を含むグループ、岩場の歩行に不慣れなハイカー等の場合に危険であるとの理由で、入口と鬼が牙分岐に、尾根ルート(次項)利用を勧める表示がつけてある。 [行動参考時間 登り 60 分 下り 50 分]	ガレ場が、鬼が牙の登り、長坂の頭の登り、下降にあり、注意を要する。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要
	石水溪、船石林道から鬼が牙(尾根ルート) ※鬼が牙 油断できない 岩の山!	安楽越への道路と船石林道の分岐から船石林道を 50m ほど進み、右側の尾根に入る(道標あり)。踏み跡がうすい部分があるので注意するが尾根に沿って登る。尾根の観察、地形図の読図、赤テープの確認をしながら登りたい。地面は花崗岩の露岩が風化して細かい砂礫が多く、下りの時はスリップにも注意したい。分岐から、右側にトラバース気味に回り込んで、鬼が牙(本峰、北峰)に到達する。危険箇所はないが、下りの場合、尾根芯の登山道を外さない事が大切である。[行動参考時間 登り 60 分 下り 50 分]		【2020・5 更新】 追記

	鬼が牙(分岐)から長坂尾根(長坂の頭)、県境稜線(大岩、小太郎峠)	鬼ヶ牙分岐(本峰への分岐)～県境尾根(大岩)の間は大小のピークがあり、アップダウンが続く。カクレ谷乗越は、長坂の頭との最低鞍部である。ロープが設置されている急斜面を登り返し、そこから 3 つ目のピークが長坂の頭になる。樹林帯の間から仙ヶ岳の双耳峰が展望できる。長坂ノ頭の頂上下は北側に回り込む事。次の鞍部手前のガレ場と岩場(固定ロープが設置)は慎重を要したい。船石谷(林道)側の東の谷から炭焼きの踏み跡が、東の谷乗越(鞍部)で長坂尾根と交差して、葺谷の中流部まで数分でくだることができる。途中で左からの尾根(12 の尾根)を合わせ、徐々に県境稜線が大きくなってくる。樹林中の急斜面を登りきると大岩の下である。その上が大岩(ピーク、756m)である。(その肩にあたる所には小太郎峠の道標がある)大岩の上からは、仙ヶ岳、野登山、明星ヶ岳、伊勢平野が望めるが、舟石の方が広くて休憩適地である。全体的に登山道は明瞭で赤テープはあるが、磁石・地形図で現在地確認とルート維持をしたい。 [行動参考時間 行き 80 分～100 分 帰り 80 分]		【2020・5 更新】 追記
	船石林道(船石谷)から長坂の頭尾根	このルートは御所平の南端への最短のルートとして利用価値がある。船石林道の入口から、簡易舗装の船石林道を歩き、荒れた地道に変わり、やがて林道の終点となる。終点の手前(約 1 分)から、東の谷とコスギ谷の間にある尾根に入る。入口に赤テープ有り。尾根に乗ってしまうと、やせ尾根、岩尾根の部分もあるが、総じて登りやすい。登山口(林道終点手前)から約 1 時間程度の頑張りで、長坂の頭尾根に合流できる。		【2020・5 更新】 追記

		この尾根を下山する場合は、すぐに左右に尾根が分かれるが、左の尾根に入る(地形図でも明瞭)。ただし、どちらも通行は可能である。[行動参考時間 登り 80 分 下り 60 分]		
⑦ ⑧ ⑩	仙ヶ岳～御所峠～御所平～大岩・小太郎峠(県境稜線)	仙ヶ岳(西峰、961m)頂上から西方向の県境稜線縦走コース。宮指路岳～仙ヶ岳の間に比べると明らかに踏み跡は薄くなる。御所峠から樹林の中の登り返しは頑張れば、案外短時間で御所平の北東端のピーク(ヨコネ)に着く。一気に展望が開けて仙ヶ岳と南尾根、滋賀県側の能登が峰の長い尾根が美しい。周囲はアセビの灌木だけが目立つ。ここからは、南西方向に、アップダウンはあるがゆるやかな幅広い尾根が約 1500m 続いて、笹原、ススキの原、バイケイソウの群落、アセビの灌木が点在する。鈴鹿山脈南部の山域では、とても展望がよく気持ちが良い稜線である。部分的に、鹿よけの金網の残骸もあるが、忠実に尾根筋をみれば、はっきりした踏み跡が続く。悪天時、ガス、雨、雪などで方向を失ってしまう危険はある。道迷いを防ぐため、磁石、地形図で、方向確認、現在地確認をすることが必要である。 南西のピーク(ミズナシ)から南西端の小ピーク手前から県境稜線は直角に左に曲がる。見過ごさないように。その後は稜線とは思えない植林帯の斜面となる。鞍部で葺谷(ガンサ谷)コースが分岐する。この鞍部(道標なし、ネット上では「家老平」と呼ばれるが、滋賀県側の小太郎谷の源流部にあたる場所である。)は、草地になっていて、とても雰囲気が良い。植林の中を 15 分程度歩き、小太郎峠とその横の大岩に着く。標識あり。		【2020・5 更新】 追記

		[行動参考時間 仙ヶ岳～ヨコネ 60～80 分 ヨコネ～大岩 60 分～80 分]		
⑩	大岩～船石～臼杵ヶ岳（県境稜線）	県境尾根の東側（三重県側）は崖に近い急斜面、西側の滋賀県側はなだらかな植林帯の斜面である。県境稜線の上の縦走路は、滋賀県側のなだらかな部分を小さなアップダウンを繰り返しが続く。細かく曲がりくねっており、やや不明瞭な箇所はあるが、「ベンケイ 761m ピーク」への分岐点に注意すれば、臼杵ヶ岳までは特に問題はない。船石は広いピークで 20 人は休憩可能であり、細長い畳一畳ほどの船石の上からは大展望がえられる。 [行動参考時間 行き 60～70 分 帰り 50～60 分]	県境稜線からベンケイに延びる尾根に入りやすい。道標が必要。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要
⑪	船石林道（船石谷）から長坂の頭尾根	船石林道終点から入る。うすい踏み跡だが、赤テープあり。比較的歩きやすい尾根。 （登山道ではない）	道迷い防止の道標が必要。	

* ルートファインディング ルートが曖昧なところで、見分け見出すこと。 コル（鞍部） 稜線上（尾根上）でピークとピークの間の低い所

④仙ヶ岳南尾根 写真(11)～(20)



南尾根・白谷分岐手前の木橋(11)増水時以外は通行可能。



南尾根・白谷分岐手前の木橋(12)増水時以外は通行可能。



南尾根・白谷分岐 道標(国定公園協会) (13)



下部イタハシ谷右岸側の老朽化した木橋(14)



右岸側 木橋が朽ちて谷側に落下、谷沿いに迂回コース
(15)



迂回コースを表示(下る方向) (16)



南尾根 P3 (17) 好展望



南尾根 P3、P4 の間 (18)



南尾根から見る仙の石(東峰) (19)

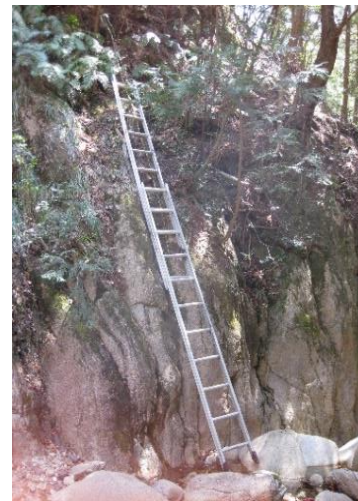


仙ヶ岳(西峰)鈴鹿高校山岳スキー部員(20)

⑤仙ヶ岳白谷コース 写真(21)～(26)



白谷コース クサリ場(21)



白谷コース ハシゴ1(22) 揺れるので慎重に利用する。



白谷コース ハシゴ2(23) 慎重に利用する。



白谷コース 古い木の橋1(応急処理後)(24)



白谷コース 古い木の橋1(頭上にロープ) (25)



白谷コース 古い木の橋2(横を歩く) (26)

⑥ 葦谷(ガンサ谷) 写真 (27)～(32)



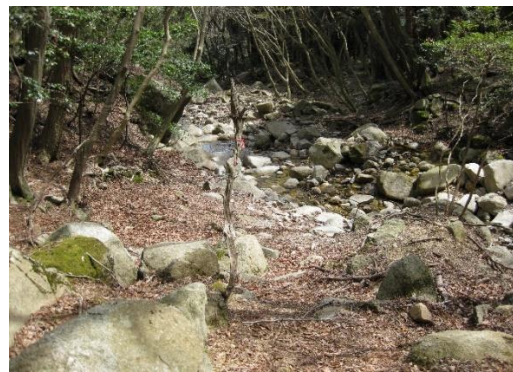
葦谷全景 (27)



谷源頭部のガレ(28)



谷中流の古い道標(29)



谷中流部は広い河原状(30)



下流部の小滝(登山道は右岸側)(31)



老朽化した木の橋(32)

⑦御所平 写真(33)～(36)



御所平の遠景(33)



ゆるやかな稜線(かつての笹原は消えた)(34)



緩やかな下り(35)



バイケイソウ(4月下旬)(36)

⑧御所平南西端から小太郎峠(県境稜線) 写真(37)～(38)



樹林帯の中の縦走路(37)



樹林帯の中の縦走路2(38)

⑨石水溪～鬼が牙～長坂の頭～小太郎峠・大岩(県境稜線) 写真 (39)～(48)



鬼ヶ牙三ツ淵(谷)ルート 険悪なすべりやすい岩場(39)



鬼ヶ牙三ツ淵ルート(固定ロープあり、危険大)(40)



鬼が牙東峰(41)



鬼が牙頂上付近花崗岩の露岩上の道(42)



花崗岩が風化したザレ場の歩きにくい道(43)



同じザレ場の道(44)



ガレ場を避けた巻き道(ロープが垂らしてある)(45)



長坂の頭(46)

	
長坂の頭北側のガレ場の下降地点(固定ロープ)(47)	県境稜線から仙ヶ岳遠景(48)

⑩小太郎峠から臼杵ヶ岳 写真(49)～(52)

	
船石(舟石) (49)	左が県境稜線、右がベンケイ 道標なし(50)

	
臼杵ヶ岳 頂上 樹林帯の中のピーク(51)	同じ 2, 30 人なら休憩可能な広い頂上(52)

⑪ 船石林道(船石谷)から長坂の頭尾根 写真 (53)～(56) (未撮影)

[3] 臼杵ヶ岳とその周辺

番号	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概要	危険地点、問題点	備考
⑫	石水溪からウス岩・キネ岩経由で臼杵ヶ岳	登りで道が細い部分もあるが、ハイカーによく登られているルートである。石水溪から林道安楽越線に入ったところ(左折して橋を渡った所、道の両側に駐車可、約 10 台)に、臼杵ヶ岳登山口の道標が有る。最初は小さな沢沿いの道であるが、次第に南西側の急な斜面を登りながら、次第に尾根の急登になる。道が細く、分かれている部分もあるが赤テープに導かれる。標高 600m 付近でゆるやかな尾根にのり、重なった大岩、ウス岩・キネ岩がある。続いて小ピーク(臼杵山)の北側を通過して、2 回アップダウンを繰り返し、県境稜線に	臼杵山付近に、道迷い防止道標必要。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		出る。すぐに臼杵ヶ岳の頂上に到着する。 [行動参考時間 登り 70～90 分 下り 60～70 分]		
⑬	安楽越から臼杵ヶ岳(県境稜線) 写真 (59)～(60)	カモシカ高原までは東海自然歩道。以後、県境稜線の上の登山道となる。ただし県境稜線に両側から支尾根が合する数地点があり、地形図の読図をして間違えないように登る。 [行動参考時間 登り 50 分 下り 40 分] ※臼杵ヶ岳は、標高は低い(697m)が、多くの尾根と谷を持っている山である。尾根には展望の良い露岩も随所にある。大体踏み跡があり、数本の尾根には人の歩いた痕がある。ただし、未整備の踏み跡程度の尾根であるので地形図、磁石での地図読みが必須である。 (例 直登尾根、船石林道終点からの尾根など)。なお花の木谷の遡行には、技術、装備が必要であるから、注意したい。 ※その他のルート [所要時間 略] [A]北東尾根 船石林道終点から谷沿いに作業道を進み、頂上から北東に延びる尾根への取付き点が不明瞭。赤テープはある。標高 550m 付近の尾根合流点までは樹林帯の中の急登である。尾根合流してからは尾根上を進む。下る場合は入口を間違えないように。このルートは使える。 [B]南西尾根 A 臼杵ヶ岳頂上に直登する尾根沿いの道。踏み跡があるが、570m 付近で右に回り込む(巻く)。小尾根に乗り、660m 地点の展望岩に出て、ゆるやかに登れば臼杵ヶ岳に達する。 [C]南西尾根 B 臼杵ヶ岳頂上西 100m の県境稜線上のピークに直登するルート。途	支尾根と合する数地点に道標必要。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		中のザレ場からの展望抜群。下る場合は[B]と[C]共に地図読み必須。踏み跡、けものみちなどがついている支尾根が多く、下りに使用するとルートどりを間違えやすい。		
--	--	--	--	--

⑫ ⑬ウス岩・キネ岩経由で臼杵ヶ岳、安楽越へ(県境稜線) (57)～(60)

			
(57)登山口 車数台駐車可能		(58)樹林帯(広葉樹)の中よく踏まれている。	
			
(59)急斜面は細くなる。		(60)ウス岩付近の岩場	

[4]四方草山(しおそやま)、三子山とその周辺

番号	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概要	危険地点、問題点	備考
⑭	安楽越から霧山、霧ヶ岳、四方草山(要注意コース)	安楽越からの県境稜線は、支尾根が多く入り込みやすい(要注意)。急な下りも要注意。ポイントは大峠から錐山までの区間である。三重県側の崩壊が激しく、痩せたキレット状になっている。岩質がもろく転落の危険があるうえ、浮石、落石にも注意を払わなければならない。その後は安定した登山道になる。錐山(錐ヶ岳)は狭いが好展望のピーク。一旦下って登り返し、尾根を越える地点(登山道が直角に曲がる)が霧ヶ岳の西端(頂上標識は三重県側の樹林の中。)になる。県境稜線を西、さらに南西に進み、三角点(667m)のある四方草山の頂上に到達するが、頂上は全く見晴らしが利かない。休憩には南側の南峰が適している。 (注 大峠～錐山の区間を滋賀県側の丸田谷の源流部を利用した迂回路を調べてみた。a 区間は旧道でもあり通行可、b 区間は道あり石積み堰堤も存在して幕営適地あり、c 区間に滝はないが流木と土砂堆積で歩きにくく時間ロス 結論は迂回ルートとして勧められない、途中幕営地としては使えるかも…) [行動参考時間 登り・下り とともに 110～120 分]	安楽越～大峠は道間違いやすい。 キレットは非常に危険。 霧ヶ峰の西端から県境稜線に進むが、間違えやすい。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要
⑮	カナシロ越から霧ヶ岳	石水溪から「関・池山広域林道」を利用してカナシロ越につく。道端に駐車。霧ヶ岳から雨引山に延びる尾根を利用して歩いた。うすい踏み跡と古い赤テープがあるが、展望がきかない樹林を進むが、1 か所ガレ場がある。読図力と体力で、	踏み跡がうすく間違えやすい支尾根が多く道迷い可能性大。	

		特に下りに利用するときは、進む尾根と支尾根の判別がつきにくい(道迷い可能性大)。特別な目的(霧ヶ岳～雨引山縦走)等でもない限り、お勧めしないルート。		
①⑥	坂下から北山尾根、霧ヶ岳	坂下から広域林道を約 1 キロ東へ。小広場(三井物産看板あり)に駐車。北に延びる尾根にあがり、忠実に尾根の踏み跡を北方向に進む。標高 570m 付近に北山南峰のプレートあり。踏み跡は徐々に明瞭になる。霧ヶ岳～四方草山～三子山～鈴鹿峠の周回コースとして利用価値はある。霧ヶ岳、北山、北山南尾根は読図力が必須である。 [行動参考時間 登り 90 分 下り 70 分]	危険箇所は特になし。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要
	坂下から四方草山南峰	坂下の老人ホームの横の急な舗装された車道の行き止まり地点から、県境稜線から南に延びている尾根に取り付く。うすい踏み跡と古い赤テープがある。県境稜線の合流地点が迷いやすい(21 参照)。注意表示ある。県境稜線を急登し南峰につく。この四方草山南峰は好展望の広い頂上で高畑山、関の宿場町、明星ヶ岳から雨引山、山女原(あけびはら)の展望に優れる。 [行動参考時間 登り 60 分 下り 50 分]		【2020・5 更新】 追記
①⑦	四方草山から三子山北峰 (県境稜線)(要注意コース)	四方草山三角点から南峰へ、南峰から急下降して、その先で県境稜線と老人ホームからの尾根と合流する。県境縦走は西進するが、老人ホーム尾根(19 を参考)に入り込みやすいので要注意。その後、すぐに県境稜線は、激しい急下降と岩場のキレットになる。特に慎重に通過しなければならない。快適な樹林帯の部分と急な上り下りがしばらく続く。最低鞍部からは安定する。登り返して、三子山北峰(568m)に着く。	坂下への分岐地点、キレットの岩場。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		仙ヶ岳方面の展望がある。 [行動参考時間 片道 50～70 分]		
⑬	三子山北峰から鈴鹿峠（県境稜線）	三子山北峰(1 峰)、中峰(2 峰)、南峰(3 峰)が並ぶ姿は、坂下、関の街からよく見えて、よく目立つ。中峰は単なる小ピークである。南峰は頂上手前に縦走路の尾根がある。頂上手前から、南に進み磐座への踏み跡もあり、県境稜線と間違えないように注意する。登り返し、送電線鉄塔をすぎると、東海自然歩道が合流する。だらだらと進むと、滋賀県側に茶畑が現れると鈴鹿峠である。 [行動参考時間 登り 40 分 下り 40 分]	危険箇所は特にない。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

* キレット 稜線が両側に鋭く切れ込んでいる所。「切戸」

⑭ 安楽越から四方草山(県境稜線) 写真(61)～(70)

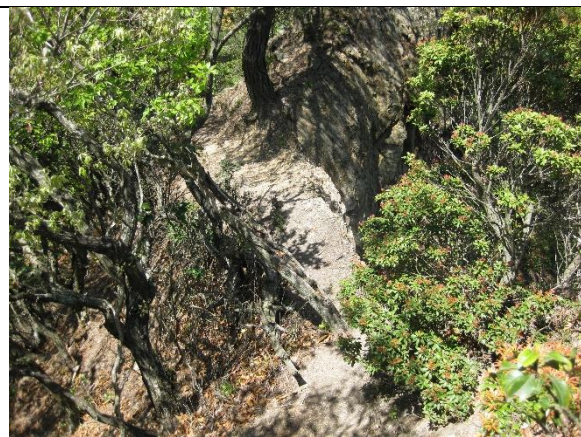
	
安楽越の熊注意看板(61)	安楽越付近のヒノキ林の中の登山道(62)



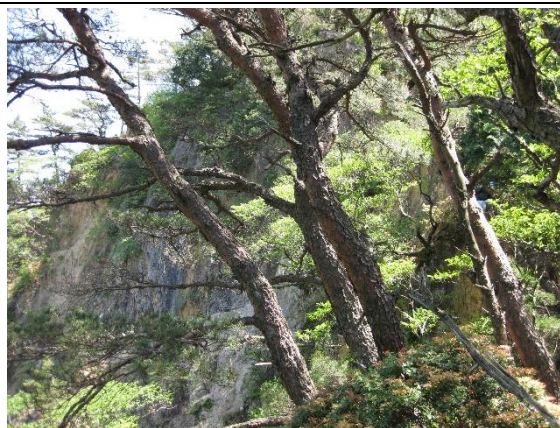
支尾根(枝道)に入らないように置き木(63)



もろい岩場でキレットになっている(64)



キレット(65)



三重県側の崩壊が激しい(66)



四方草山の最も北のこぶ、錐ヶ岳(錐山)(67)



錐ヶ岳からの眺望良い(68)



美しい双耳峰「仙ヶ岳」が見える(69)



霧ヶ岳付近の道標(間違える心配あり)(70)

⑩坂下(集落)から霧ヶ岳 写真(71)～(72)



植林の中の踏み跡を北へ進む。(71)



四方草山南峰は雰囲気の良い頂上(広く、眺望)。(72)

⑪霧ヶ岳から四方草山～三子山(県境稜線)



坂下の老人ホームへの下山路(踏み跡)(73)



キレット(74)



キレット(75)



三子山 1 峰 好展望(76)



三子山3峰 磐座(岩)への分岐でもある(77)



県境稜線は、途中から東海自然歩道となる。(78)

	
階段(79)	鈴鹿峠付近(右は土山町の茶畑)(80)

[5]高畑山とその周辺

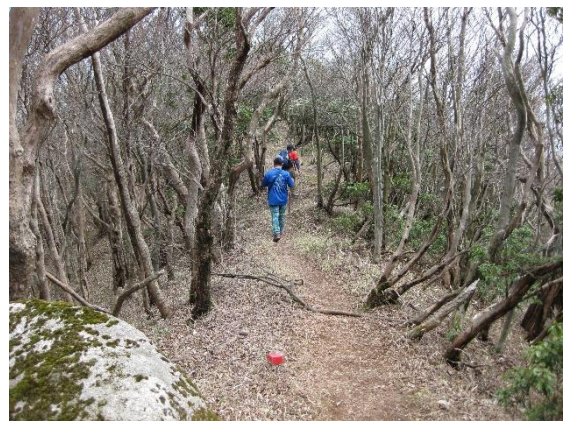
番号	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概要	危険地点、問題点	備考
①9	鈴鹿峠から高畑山、溝干山、坂下峠	登山口は鈴鹿峠で、土山町側に駐車場、トイレがある。三重県側の登山口は、片山神社又は鈴鹿峠自然の家になるが、旧東海道を約 60 分、片山神社(登山口)から鈴鹿峠まで約 30 分必要である。 鈴鹿峠から高畑山までの県境稜線はよく踏まれている。キレット(ナイフリッジ)があるので注意したい所、ザレ場(岩石が風化して砂礫が堆積)、岩溝になっていて、固定ロープも設置されている。特に、下りの時は注意したい。その後は常緑樹の樹林帯の上り下りをして高畑山山頂につく。高畑山からの展望は 360 度でき、素晴らしいの一語。頂上周辺は草地で数十人は休憩可能。 溝干山まではアセビなどの灌木、リョウブの樹林帯、笹の中	キレットを通る登山道は、ザレ場と風化した岩溝になっている。固定ロープも設置。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

		で気持ちの良い稜線の道である。溝干山から見る高畑山は均整がとれている。溝干山から坂下峠は急な下りで慎重に歩かなければならない。鞍部が坂下峠であるが、峠付近は、崩壊により、岩石や土砂が堆積していて、車道(神大滝林道)は埋まっている。道標は三重県側(関町)側に立つ。峠から 5 分程度下ると、簡易舗装された林道(神大滝林道、入口にゲートあり、一般車は通行不可)となる。 [鈴鹿峠～高畑山の行動参考時間 登り 110 分 下り 90 分]		
⑳	高畑山から坂下峠、長峰尾根 (道迷い注意)	坂下峠から県境稜線の登り返しはガレ場の左側の灌木の中の急登。小ピーク(小笹山)に到着するが、ここが県境稜線(唐木山・那須が原方面)と長峰尾根との分岐である。 左(東)に延びる長峰尾根に入る。標高 600m 付近までは笹原とにアセビの気持ちの良い尾根である。高畑山から溝干山が正面に、仙ヶ岳がその背後に、美しい山並みである。その後は、ヒノキの植林帯の中の尾根の中の道である。南に延びる支尾根に入りこむ心配があるので、磁石で進行方向(東の方向)を確認してルート維持をしなければならない。長峰(標高 500m、プレートあり)の手前から北に延びる支尾根から、または長峰頂上から、国道 1 号線に降りることができるが、どちらも急下降である。 長峰尾根は、全体的に薄い踏み跡の部分も多く、地形図の読図力(小ピークと鞍部、支尾根の方向等の地形の観察をして現在地確認をする)が必要である。またアップダウンもあるので体力も必要。[行動参考時間 180 分] なお 2020 年開催予定の東海高校総体登山競技では、長	長峰に延びる尾根は、踏み跡であるので、地形図の読図力(磁石による方向確認、地形の観察も)が必須である。	【2020・5 更新】 コース名 コース概要

	峰からスズリ越を経て番屋林道に至るルートを予定した。		
--	----------------------------	--	--

⑬ 鈴鹿峠から高畑山・溝干山、坂下峠、坂下(集落) 写真(80)～(87)

	
鈴鹿峠(土山町)登山口広場(80)	広場の横の公衆トイレ 非常に清潔。(81)
	
キレット(ナイフエッジの標識)(82)	キレットを登る三重県高校山岳部の生徒 (83)



高畑山へ 灌木帯の道(84)



頂上は笹原で多人数も休憩可(85)



高畑山から見る溝干山(86)



溝干山から見る高畑山(87)

②坂下峠から長峰尾根、坂下へ 写真なし

[6]錫杖ヶ岳(向井ルート)

亀山7座の山では、唯一、布引山地にある。北側が亀山市(旧・鈴鹿郡関町)に南側は津市)である。

番号	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概要	危険地点、問題点	備考
	加太向井コース	関町加太向井から登るルート。名阪国道向井 IC より、林道に入り 2, 3 分で駐車場に到着。この登山道は、地元山岳会により、よく整備されており、交通アクセスも良く、登山者も多い。柚之木峠までは植林の中を谷沿いに歩く。アルミ製の橋、木の橋が数か所ある。峠からは尾根道になる。急登でやせ尾根で木の根を利用して登るところもある。休憩用のベンチも設置されている。頂上直下は岩場になり、固定ロープ、クサリ、ハシゴ(梯子)がつけられている。初心者が登れるよう整備されている登山道であるが、急な岩場が多いので、特に下り時、慎重に行動したい。頂上はやや狭いが、360 度の大展望が得られる。頂上直下には、休憩用の東屋もある。	初心者が登れるよう整備されている登山道であるが、急な岩場が多いので、特に下り時、慎重に行動するべきである。	【2020・5 更新】 コース概要
	福德コース(錫杖ヶ岳頂上から東尾根と福德方面へ)	下之垣内[東]コースとの分岐に危険の古い看板あり。小雀の頭(574m)に向かう。途中小ピークが5つあり、痩せた岩尾根の部分もあるので注意する。小雀の頭のピークには三角点があるが眺望はない。福德方面に明瞭な踏み跡がある。急傾斜の部分、痩せた部分がある。509m ピーク以降からは北東に延びる尾根に入る。幅が広い尾根の部分(一見は斜面)もあるが、尾根芯を外さないように下る。やがて踏み跡のある明瞭な尾根になる。小ピーク(中電巡視路の表示あり)の先で右側の谷におり、使用されていない車道(作業道)を進むと、車道(福德道登山道の入口)に出る。地図読みに		【2020・5 更新】 追記

		よるルート維持、歩行力が必要なコース。		
	津市側から登る下之垣内[東]コース	津市芸濃町下之垣内から登るルートで、整備されている。錫杖湖の反対側の道路沿いに駐車場有り。ふれあい公園駐車場（前にトイレ有り）からは約 800m 歩く。登山口には大きな看板が立っている。最初は沢沿いに林道を歩く。途中に渡渉地点があるが簡単に渡れる。約 10 分歩き登山道に入る。スギやヒノキの急斜面の道である。尾根上の鞍部に出る。右は小雀の頭へのルート（東尾根）であり、左に進み、尾根の急登を登っていく。左から下之垣内[西]コースが合流し、階段を登り頂上直下になるとゆるやかなトラバースとなり休憩用の東屋に到着する。頂上はすぐ上である。頂上からは鈴鹿山脈、伊勢平野、伊勢湾、青山高原など 360 度の大展望が得られる。		【2020・5 更新】 追記
	津市川から登る下之垣内[西]コース	本法寺から登るが、東コースに比べると急な階段が多いが、よく整備されている。		【2020・5 更新】 追記

加太向井コース写真



木の橋	柚之木峠
	
登山道の休憩ベンチ	頂上直下 木の根と固定ロープを利用する。
	
頂上直下の休憩テラス	頂上直下のアルミ梯子を下る。

[亀山7座以外の山々] ■は地図読み、歩行力、余裕ある時間(道迷い必至)が試されるルート

山名	コース名	コース概要	備考
明星ヶ岳	◎ 国分寺コース	白木一色の集落から農道を進み国分寺駐車場に着く。簡易舗装路を歩いて国分寺に向かう。なお上白木の側からも、4、5台駐車可能地があり、国分寺に行くことができる。国分寺から鐘楼の左側から登山路を確認して登りだす。植林の中のはっきりした尾根道である。やがて平坦な尾根道になり、東峰(三角点 549m)の到着する。展望はほとんどない。このルートを下る場合、東峰を含めて、東に延びる尾根に入らないよう注意する。約 10 分で西峰に到着する。西峰は 360 度眺望にすぐれる。特に、真正面には四方草山がどっしり構えている。	【2020・5 更新】 追記
	■ 西尾根(下り)	422p、400p を結ぶ尾根ルート。樹林の中を急降下。曲がりくねっている。磁石、地形図での現在地確認・ルート維持が必要。尾根分岐に赤テープがあり間違えやすい。特に 400p から鈴鹿南林道に至るルートと思われる地点など。400p から北西、南西、南に延びる尾根を下降したがアップダウン激しく展望がない尾根が続く(かすかな踏み跡はある)。小野川源流部(花の木北作業道の先)を川沿いに進むが倒木や土砂の堆積が阻まれる。途中から荒廃した作業道になる。	【2020・5 更新】 追記
	■ 南東尾根	435P の尾根から登るルート。うすい踏み跡(トレース)ある。尾根の分岐は少ない。標高 300m 付近でトレースが不明瞭。435p 以降は次第に明瞭になる。古い登山道(三角点の西側の下)に出合い左折すると三角点と西峰の鞍部に出る。	【2020・5 更新】 追記
花 の 木 339m	花の木 ・大岩	羽黒山分岐と筆捨山の鞍部(東海自然歩道の道標有り)から小野川川に踏み跡を下降(約 5 分)で渡渉すると車道(花の木	【2020・5 更新】 追記

		作業道、放置された車 2 台)にでる。その地点から赤テープ、ビニールひも等がつけられた小尾根を北方向に急傾斜の踏み跡を登る。(踏み跡はうすい)。230m のピークが「大岩」で亀山の山々の絶好の展望台である。明星ヶ岳、野登山、仙が岳、四方草山、三子山、高畑山、錫杖岳、羽黒山の大展望が楽しめる。大岩から花の木三角点までは岩場のトラバースに注意する必要がある。花の木三角点からの展望はない。	
展望台～羽黒山～筆捨山	◎(一部東海自然歩道)	正法寺山荘跡入口を右に見て、羽黒山への登山口(鳥居あり)につく。樹林の中をジグザグに登ると羽黒山頂上に到着する。頂上はわりに広く、周囲の展望は良い。そこから西尾根に入る。道は狭く、巨岩を巻いたり、石の隙間のトンネルをくぐる所もある。左右の尾根に入り込まぬよう注意する。羽黒山分岐からは東海自然歩道になり、約 15 分で筆捨山である。筆捨山頂上の展望はない。	【2020・5 更新】 追記